



五中だより

府中市立府中第五中学校

校長 酒井 泰

令和2年7月1日 No.6

えっ、校長先生なの

学校が再開され、通常授業となって2週目となった6月26日（金）に1年生の授業を参観しました。教員からの質問に対して、多くの生徒が挙手をして発言し、テンポよく授業が進んでいましたが、ある質問の時、一人も挙手をしていない列があることに気づいた教員が、生徒たちに「今日は校長先生が参観されているから緊張して手が挙がらないのかな」と発言したところ、教室内の生徒が一斉に振り向き、「えっ。校長先生なの」「知らなかった」「パソコンの修理の人かと思っていた」などと、大騒ぎになりました。

私も薄々は感じていました。1年生が入学して以来、1年生の教室がある3階の廊下を歩き生徒とすれ違うたびに「おはようございます」「こんにちは」などと1年生に声をかけるのですが、「何か反応が薄い」、「1年生が学年の先生たちに対して見せる姿と違うな」と感じていました。「もしかして、生徒は私のことを知らないのではないだろうか」と思うようになっていたのですが、まさか、本当に「知らなかった」のです。思えば入学式の式典も急遽取り止めになり、校長の式辞も放送でしたし、その後も朝礼をはじめ何回か生徒に話す機会があったのですが、全て放送でした。直接、顔を見て話す機会が現在までないのです。これは1年生の保護者の皆さまにも言えることで、6月17日（水）の午後、多くの保護者の方のご参加をいただき、学級単位での保護者会を開催しましたが、この時も放送による挨拶でした。玄関に立ってご挨拶をしていたのですが、きっと十分に認識していただけてはいないのではないのでしょうか。

しかし、校長の顔と名前が一致することなど、重要度はそんなに高くありません。生徒にとって一番大切なことは、日々接する教員の顔と名前が一致し、日々の授業に精一杯取り組み、その中で自分の良さと頑張りを教員に見せ、その努力を適切に評価してもらい、もし課題があったなら、信頼する教員からの助言により改善に向けた一步を踏み出してくれることだと思っています。保護者会の折に「今年度は特に学校と家庭の連携が大切で、何かあったら、些細なことと思っても連絡をしていただきたいと思います。生徒たちの前には様々な試練が待ち受けていると思いますが、その高い壁を乗り越えてもらうための支援を、私たち大人がしてあげなければなりません。お子様の成長を確かなものにするために、保護者の皆様と教職員の連携・協力は欠かせないのです。今後、不明なこと、学校に伝えておいたほうがよいと思われることにつきましては、ご遠慮なくお話しいただきたく存じます。」とお話しさせていただきました。

これまでだれも経験したことのない、予測の立ちにくい状況が続きますが、府中第五中学校の教職員一同、保護者の皆さまとの協力体制の中、精一杯、生徒のよりよい成長を目指して頑張っています。後になって、今年度のことを振り返った時、様々なことがあったけれど、精一杯頑張った、有意義な年だったと言えるようにしたいと思います。今年一年間、お互い顔の見える関係の中でともに努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大切にしてほしいこと

6月22日（月）の放送による朝礼で全校生徒に次のような話をしました。
「先週の15日（月）から通常登校が始まりました。実に約3か月ぶりの本格的な学校生活

です。『三密』にならないよう気を配りながらの学校生活で、かなり疲れを感じた人もいるのではないのでしょうか。これからも『三密回避』と『消毒の徹底』は続きます。気を緩めることなく学校生活を送ってほしいと思います。

さて、2・3年生は知っていることと思いますが、実はこの臨時休業の間に、本校の開校記念日があったのです。それは、4月16日で今年度、府中第五中学校は58周年を迎えました。歴史を調べてみると本校は府中第一中学校から分かれて誕生し、2年生6学級、1年生5学級の2学年11学級でスタートしたそうです。昭和37年の4月16日に、校舎の落成式と開校式を同時に行ったことから、その日が開校記念日となったとのことです。

皆さんも自分自身の誕生日やご家族の誕生日、友達の誕生日など、とても重要な日として記憶することが多いと思います。家族の誕生日を忘れるなんて信じられないし、逆に自分の誕生日を万が一家族が忘れていたら、もう怒り心頭という状態になるのではないのでしょうか。

なぜ人はこれほど誕生日を重要なことと捉え、その日をお祝いするのでしょうか。皆さんは考えたことがありますか。それは今では考えられないことですが、昔は、医療の水準も低く、さらに貧しく生活環境が十分に整わない状況があり、生まれてきた子供が順調に育つこと自体がとても難しい環境であった時代がありました。そのような中、無事に子どもが1年間を過ごすことができ、すくすくと育ってくれたことは、家族にとって何事にも代えがたい喜びであったのです。だから、家族みんなでお祝いし、次の1年間も無事で立派に成長できることを強く願ったのです。今では、医療が進歩し、生活環境も整っているのに、昔とだいぶ状況が異なってきていますが、我が子が1年間、無事に成長できたことを喜ぶ機会となっているのです。その節目の重要な日が誕生日なのだと思います。

さて、学校は人ではありませんので、このように盛大に誕生日を祝うことはありません。あるとしたら、せいぜい50歳とか60歳とかという節目の年に周年行事等を行い、お祝いすることがあるぐらいです。

しかし、人ではないのですが、学校も成長したり、衰えたりするのです。その時に在籍する生徒や先生方によって、どんどん変化していくものなのです。生徒と先生がそれぞれ目標をもち、協力して自分たちの学校をよりよくするために努力すると、学校は『よりよい方向に成長する』のです。まるで生き物のように、学校に入った途端、『勢い』とか『活気』とか『何か楽しそう』と感じるようになるのです。反対に、生徒や先生がどうでもいいやなどという気持ちになって努力することを怠り、その日その日を楽しく過ごせばよいという雰囲気になってしまうと、あっという間に『暗く、活気のない、勝手な行動がはびこる』『通いたいと誰も思わない』学校になってしまうのです。

本校には生徒が408名も在籍しています。皆さんには、『私は408分の1だから、私一人ぐらい』という気持ちではなく、『自分は408名の代表』という気持ちになってほしいと思います。

五中生は、よく約束を守り、人の話をきちんと聞くことができると思います。心優しい人が多く、相手の立場に立って考え、行動できる生徒が多いと思っています。そして少し恥ずかしがり屋で、やればできるのに自信をもって、一歩前に出ることが苦手な生徒が多いとも感じています。これらは、全て五中生の長所だと思っています。無理をすることはありません。しかし、一人一人が『五中の代表』との意識をもって、責任ある行動で自分自身の成長をつかみ取ってほしいと思います。努力する皆さんをすべての大人が応援しています。」

校舎壁面の工事について

6月23日（火）から、ほぼ2週間の工期で校舎西側の壁面の修復工事を行っています。これは、校舎西側部分の複数箇所にクラックが入っていることが確認され、そこから雨水等の浸み込みが確認されたため、急遽工事を行うことにしたものです。また、ほぼ同時期にアリーナ階段の照明を人感センサーにより点灯できるものに変更する工事も行っています。いずれの工事も施工業者と綿密な打ち合わせを行い、生徒の安全確保を第一に、授業への影響を最小限に抑える中で実施しています。

